

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-8011

住所 東京都中央区築地5-3-2

氏名 (株)朝日新聞社代表取締役社長 秋山 耿太郎 印

(代理人) 取締役東京本社代表 粕谷 卓志

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	株式会社朝日新聞社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市中原区西加瀬19-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	G	情報通信業
	中分類	41	映像・音声・文字情報制作業
主たる事業 の内容	①日刊新聞その他の新聞、雑誌、書籍の制作、発行および販売②各種電子・電波メディアによる情報提供サービス③音楽、美術その他の文化事業の開催		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	2,361	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	株式会社朝日プリンテック川崎工場技術グループ
		所在地	川崎市中原区西加瀬19-1
		電話番号	044-435-0214
		FAX番号	044-435-0219
		メールアドレス	

※受付欄	※特記事項	※事業者番号	

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	朝日プリンテック川崎工場内の照明を高効率照明に順次更新していく、また給排気ファンのベルトを順次省エネタイプへ切替え、排出の抑制を図る。①蛍光灯の高効率照明、及びダミー管への更新②モーターファンのVベルトを省エネ型に切り替える③不使用区画の消灯の徹底 詳細は、指針様式第1号(4、5面)のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	廃プラスチック排出量の削減 詳細は、指針様式第1号(6面)のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入の推進 ・廃棄物の減量化・分別化の推進 ・川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)への参加 詳細は、指針様式第1号(6面)のとおり
備 考	朝日新聞社の環境への取り組みは、社のサイトasahi.comで一般に公開している。 http://www.asahi.com/shimbun/csr/kankyo.html

備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。

2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。

3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。

4 ※印の欄は記入しないでください。

5 氏名(法人にあっては、その代表者)を記載し、押印することに代えて、本人(法人にあっては、その代表者)が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

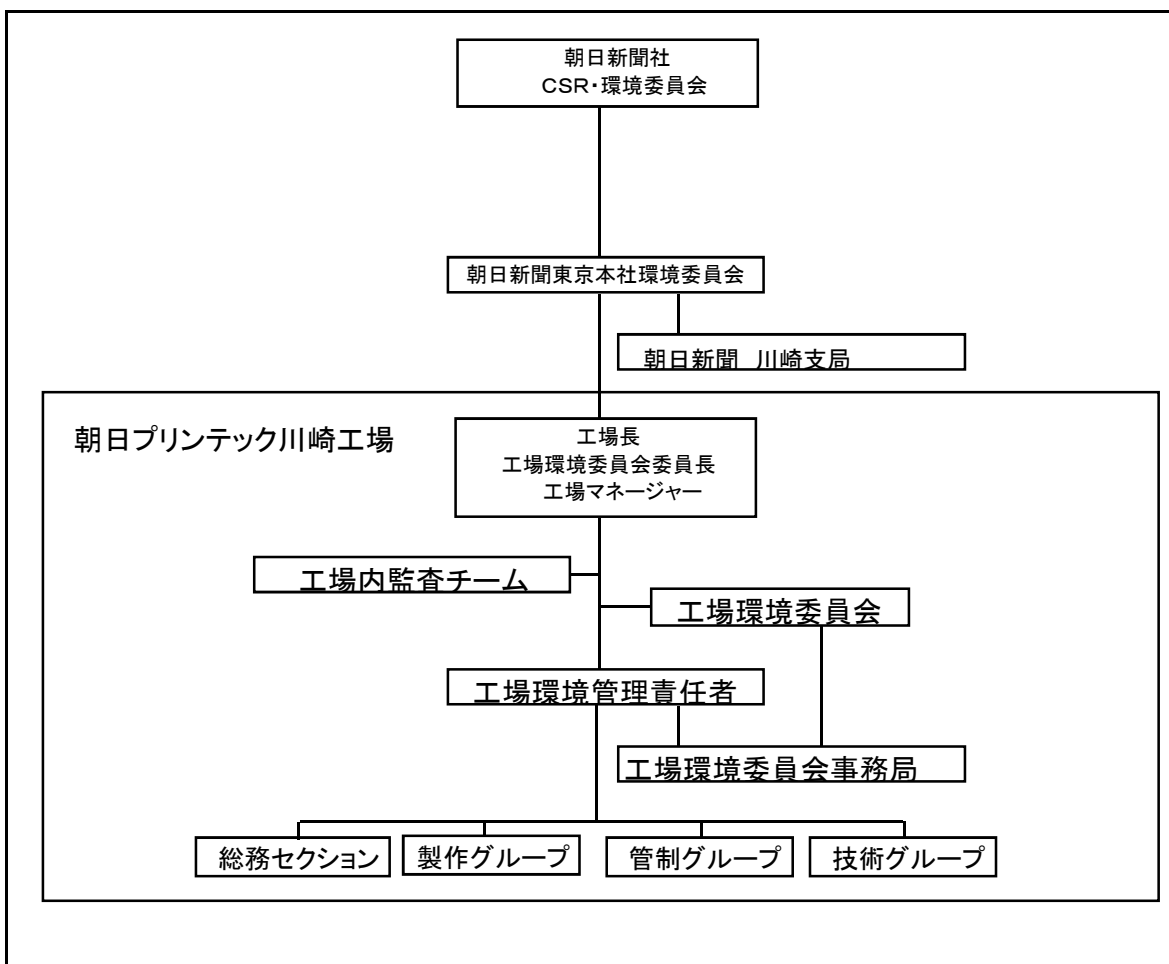
1、事業者全体基本方針

- ・新聞印刷・梱包事業が環境に与える影響を把握し、環境汚染の予防を図るとともに、各印刷工場においてはISO14001環境マネジメントシステムを継続的に改善します。
- 環境改善に向けて以下の項目を重点テーマとして取り組みます。
- 電力などの省エネルギー
- ・この環境方針の達成のための目的・目標を設定し、社員と委託会社従業員にも広く知らせ、全部門・全職場を上げて取り組むとともに、定期的に見直します。

2、朝日プリンテック川崎工場の実施計画・行動内容

- ①空調動力の削減(空調機・給排気ファン運転時間見直し)
- ②熱源動力の削減(常に蓄熱量を監視し、熱源機器を細かく運用する)
- ③照明電力の削減(節電対象SWにグリーンシールを張り節電を励行させる。作業時間帯以外は必要箇所を除き消灯)
- ④エアーコンプレッサー動力の削減(不必要なエアー放出はしない。エアー漏れ箇所の早期発見、修復)
- ⑤電力量・ガス量チェック(毎日の帳票によるチェック、月1回のメーター検針データによるチェック)
- ⑥冷温水発生機管理
- ⑦ボイラー負荷軽減
- ⑧貯湯槽内容量の有効活用

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 4,038 (調) 3,261 t-CO ₂	目標排出量	(実) 3,997 t-CO ₂
削減率	(実) 1.0 %	削減量	(実) 41 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	単 位
基準年度の値	目標年度の値
削減率	%
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由	

ウ 目標設定に関する考え方

<p>川崎市内にある朝日新聞社の施設は、朝日プリンテック川崎工場と、川崎支局の2つだが、使用エネルギーのほとんどを川崎工場で占めている（99.8%）。よって、川崎工場での温室効果ガス削減の目標設定がイコール朝日新聞社としての基本方針となる。</p> <p>温室効果ガスの排出量削減を図るため、排出量の値を年0.3%以上削減することを前提に目標を設定した。</p> <p>また計画期間内に、川崎工場に太陽光発電を導入して温室効果ガスの更なる削減を目指せないかどうかを社内で検討している。</p> <p>また、事業活動地球温暖化対策指針別表のうち、21年度末日までに実施していない基本対策のうち、実施予定のものについては全て実施することを目標設定に反映した。</p>

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

<p>朝日新聞社の自主計画では2010年度末までに、01年度比で10%の温室効果ガスを削減することを目標に毎年、環境行動計画を策定、推進してきた（対象は全国の本支社、連結対象印刷工場など計20施設）。すでに目標は07年度末でクリアしたが、最終年度（10年度）も総仕上げの年として全社を挙げて削減に取り組んでいる。最終的には目標の2倍を越す削減率を達成したい。また、改正省エネ法の施行に伴い、11年度からの新しい自主計画を策定するべく社内で検討している。次年度以降は、この新しい行動計画に基づいて温室効果ガス削減に取り組むことになる。</p>
--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<p>朝日プリンテック川崎工場においての措置は以下のとおり。</p> <p>○空調設備管理 給排気ファンのVベルトを省エネタイプに切替える。</p> <p>○照明設備の運用管理 2灯型蛍光灯のうちの1本を通電用ダミー管に切り替える。 Hf型の蛍光灯への更新を進める。 リモコン照明スイッチのグルーピングの適正化をはかり、不使用区画の消灯を徹底する。</p>
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

2011年度以降、朝日プリンテック川崎工場に太陽光発電を設置して温室効果ガスの削減に寄与できないかをプロジェクトチームで検討している。なお、再生可能エネルギーの利用としては、朝日新聞社として年に約120万kwhのグリーン電力（風力発電+バイオマス発電）を購入して新聞印刷の電力の一部に充てている。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種 類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

朝日プリンテック川崎工場では、基準年度以前から積極的に省エネルギーに取り組みを行っている。
 原油換算使用量は2001年度（3243kℓ）を基準とすると、2009年度実績（2357kℓ）は原油換算使用量を886kℓ（27.3%）削減している。
 具体的には、これまで次のような取り組みを実施してきている。
 ○二次冷却水ポンプインバーター制御化（55kW 3台）
 ○事務所及びトラックステーション空調設備（排気ファン）のCO2制御化
 ○冷水蓄熱制御改善
 ○生産設備停止時用の小型のコンプレッサー導入（37kW）
 ○照明スイッチ細分化による不要な照明の消灯
 ○更衣室、及び便所の照明のスイッチの人感センサー化

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

朝日プリンテック川崎工場での廃プラスチック排出量の削減
2009年度24.48tを3年間で0.5%削減し、CO₂ 0.5%削減を目指す。

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

朝日新聞社は、環境省が主唱する「クールビズ」(6-9月)に積極的に参加している。例えば、東京本社では、室温を原則28度に設定し、来社のお客様にも広く「ノーネクタイ、ノー上着」を呼びかけている。

川崎工場としても、以下の方針で、地球温暖化対策に貢献を期している。

・グリーン購入の推進

21年度実績は金額ベースで 0.87%

・廃棄物の減量化・分別化の推進

主なゴミの分別は下記の通り

- ・紙類、プラスチック類、金属・ビン・カン等

廃棄物の減量化主な取り組み

- ・コピー用紙の両面印刷、裏面再利用等により使用量を削減する

・川崎温暖化対策推進会議(CC川崎エコ会議)への参加

様式第 1 号

(第 7 面)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	4,038	t-CO ₂
(調)	3,261	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市中原区西加瀬19-1	1511	新聞印刷	4,031 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	1

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--